



不動産取引一件ごとに、介助犬の育成・普及のために寄付 日本唯一の介助犬専門総合訓練センター「シンシアの丘」等で贈呈式

不動産・リフォーム・広告制作・コンサルティング事業を手がける株式会社ウィル（本社／兵庫県宝塚市、代表取締役社長 坂根勝幸）は、この度、介助犬（手足に障がいのある肢体不自由者の方をサポートするために訓練された犬）の育成・普及のために寄付することをお知らせいたします。

株式会社ウィルは2003年より介助犬支援を開始し、現在、「契約募金」を軸として活動を継続しています。「契約募金」とは、**不動産取引一件につき一定額（物件種別により1,000円または10,000円）を寄付する**という当社独自の募金制度です。2023年（2023年1月～12月契約分）の契約募金は1,589,000円となり、下記の通り寄付いたします。

寄付先	寄付額	贈呈日
介助犬支援のきっかけとなった 社会福祉法人日本介助犬協会	465,000円	2023年3月22日に、目録を贈呈予定
本社所在地 兵庫県の 特定非営利活動法人兵庫介助犬協会	800,000円	2023年4月4日に、当社新入社員研修 の中のCSR研修時に目録を贈呈予定
支援のきっかけとなった介助犬シンシアの名を冠した「シンシア基金」	324,000円	

【寄付金の贈呈について】

当社では、自社の社会貢献活動への理解を深めるという目的で、入社式など多くの社員が集まる場にて契約募金贈呈式を実施して参りました。本年は下記の日程と内容で実施いたします。

<中部エリア>

- ◆日時：2024年3月22日（金）11時～
- ◆場所：介助犬総合訓練センター「シンシアの丘」
愛知県長久手市福井 1590-51
- ◆内容：当社の役員と社員が施設を訪問し、寄付金を贈呈いたします。また、犬舎や訓練室をはじめとする施設内やPR犬によるデモンストレーションを見学することで、介助犬についての理解を深めます。

※契約募金のうち、名古屋市内の6営業所の売上相当分を、長久手市にて介助犬総合訓練センター「シンシアの丘」を運営する日本介助犬協会へ寄付いたします。社員にとってより身近な施設に寄付をすることで、「自分たちの頑張りが役立っている」という貢献実感を持ち、自社のCSR活動への参画意識が高まると考えています。

<関西エリア>

- ◆日時：2024年4月4日（木）11時～
- ◆場所：アヤハレクサイドホテル 滋賀県大津市におの浜3-2-25
- ◆内容：新入社員研修の一環として、介助犬関係者を招いて寄付金贈呈式を行います。また、介助犬への理解を深めるセミナーやPR犬によるデモンストレーション、介助犬に指示を出す体験会も行います。

※どこかの部署の誰かがやっている活動という認識になりがちなCSR活動。この研修で、企業の社会的責任を実感し、自社のCSR活動について語るができるようになってほしいと考えています。



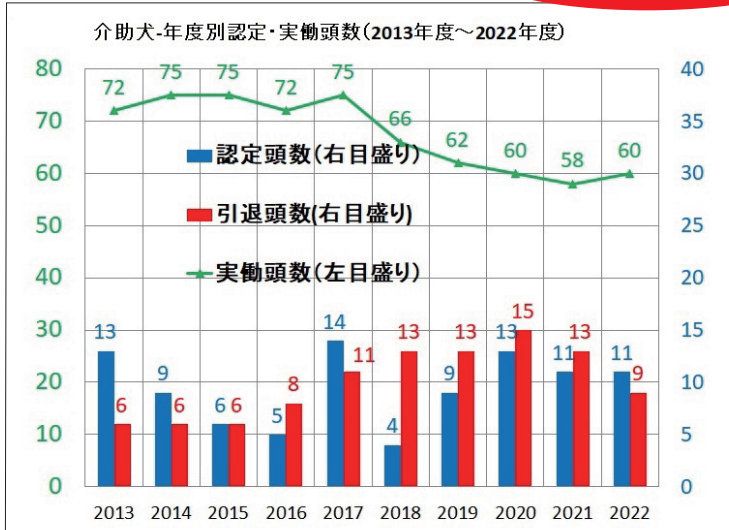
↑ 昨年、シンシアの丘にて寄付金を贈呈した際の写真（2023年4月18日）



↑ 昨年は、入社式において寄付金を贈呈しました。写真は、介助犬の仕事を実感する新入社員。（2023年4月1日）

<実働数の推移>

実働数は減少傾向



▲特定非営利活動法人 日本補助犬情報センターウェブサイトより

現在、実働する介助犬は全国で 58 頭 (盲導犬は 836 頭)

約 75 年の歴史のある盲導犬と比べ、介助犬は約 30 年と歴史が浅く、認知度も低く頭数も少ない状況です。2023 年 10 月 1 日現在の実働頭数は、盲導犬の 836 頭に対して 58 頭。介助犬が実働している都道府県は、左下の表のように 23 都道府県のみで、介助犬を見かける機会も少ないはず。訓練事業者の規模も盲導犬に比べて脆弱な団体が多く、年間の育成頭数も盲導犬の百数十頭に対して十頭前後。ここ数年は実働頭数が減少しています。そのような中、介助犬を必要とする人は約 15,000 人と言われ、育成が急がれます。

<ご参考数値>

盲導犬の実働数：836頭

(2023/3/31日 社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会調べ)

聴導犬の実働数：52頭 (2023/10/1 厚生労働省調べ)

※盲導犬、聴導犬、介助犬を総称して「補助犬」と言います。

<地域別の実働数> 2023.10.1現在

23都道府県のみ

北海道 1	北海道 1
東北 3	岩手 2、宮城 1
関東 29	東京 13、神奈川 6、埼玉 4、千葉 3、栃木 1、群馬 1、茨城 1
甲信越 1	長野 1
北陸 1	石川 1
東海 5	愛知 3、三重 1、岐阜 1
近畿 12	大阪 6、京都 3、兵庫 2、奈良 1
中国 4	岡山 3、広島 1
四国 2	徳島 1、愛媛 1
九州 0	

▲特定非営利活動法人 日本補助犬情報センターウェブサイトより

介助犬 1 頭の育成に、約 550 万円

例えば介助犬が 3 歳で実働し始めたとした場合、その育成費は、候補犬購入費、医療費やフード代、認定審査料金、人件費、施設費等で、約 550 万円(兵庫介助犬協会の場合の概算)。さらに、介助犬使用者への無償貸与中のフォローアップ、引退後のサポートまで合わせると、その総額は 800 万円にもなります。

介助犬は、オーダーメイド 認知度向上が急務

介助犬はオーダーメイドで育成されるため、その役割や必要性が一般の方に理解されにくい状況です。一般の方々にはもちろん、介助犬を必要とする肢体不自由者にとっても、その存在が理解しにくいとされています。介助犬は使用者の障害の種類や程度に応じて育成されていることから、犬によって機能的な役割が異なります。そのため分かりやすい説明がしづらく、肢体不自由者自身も自分が介助犬の使用対象者となるか判断できず、潜在的なニーズのまま終わるケースも少なくないようです。育成促進のためにも、認知度向上が急務と言えます。

支援開始から 21 年。当社が介助犬を支援する理由

創業 10 年目の 2003 年、当社の創業者が介助犬の誕生を扱ったテレビドラマに出逢いました。創業の地である宝塚を舞台としたドラマには、私たちの日常にある風景が映し出され、そこで頑張る主人公(現在、日本介助犬使用者の会会長 木村佳友氏がモデル)と自分たちが重なり共感を覚え、介助犬支援活動を始めました。以来、支援のきっかけとなったドラマを視聴、全拠点に募金箱を設置、不動産のチラシに介助犬のイラストを掲載、チャリティイベントの開催、寄付型自動販売機も設置するなど、様々な方法で支援を行ってきました。当社のウェブサイトには、介助犬ページも設けられており、介助犬を詳しく紹介しています。https://www.wills.co.jp/corp/service_dog/

お問い合わせ

株式会社ウィル
URL <http://www.wills.co.jp>

名古屋本社：愛知県名古屋市東区東桜1-10-29 パークサイドビル栄 3-A
本社：兵庫県宝塚市逆瀬川 1-14-39 Email yoko.okada@wills.co.jp
広報室 岡田 TEL 0797-74-7272 または、080-5811-1328

<会社概要> ●創業/1993年 ●資本金/297,490,850円 ●社員数/301名 ●株式上場/スタンダード：3241 ●事業内容/○流通事業○リフォーム・リノベーション事業○家具事業○開発分譲事業○賃貸事業○受託販売事業○不動産取引派生事業 (ファイナンシャルプランニング業務、紹介業務など) ○その他の事業 (広告代理業務、コンサルティング業務)